

「努力するという事」

菊 H.F

私が好きな本に、「獣の奏者」という本があります。この本は上橋菜穂子という有名な作家が書いた作品で、テレビアニメにもなりました。

この作品の主人公はエリンと言う少女です。エリンの父は彼女が幼い頃に病で亡くなり、母のソロンは緑の瞳と抜きんでた獣医の才能を不気味がった村人達に、無実の罪を押し付けられて処刑されました。

エリンと母のソロンが暮らしていた村人達はソロンの獣医としての才能を認めず、あんなにも優秀なのはソロンの緑の瞳が魔力を持っているからだと言いつけていました。しかし、そんな事実はなく、ソロンが優秀なのは彼女が努力をしていたからであり、また誰にも負けない程知識が豊富だったからです。しかし、その事に気付く村人は一人もいませんでした。

私は初めてこの部分を読んだ時に「村人達は何故ソロンの優秀さを魔力のお陰と決めつけるのだろう。何故彼女の努力に気付かないのだろう。」と疑問に思いました。

しかし、この感話を書くにあたって考え直してみると、自分も村人たちと同じ様な事を考えていた事に気付きました。

例えば、外国人歌手の歌を聞いた時に、私は「すごい声量だな。やっぱり外国の人は声量があるんだな。」と思いました。これはあの村人達の思考と同じと言えらると思います。その歌手の声量は外国人だから必然的に身についたのではなく、その歌手が努力したからこそ身についた物だと思うからです。確かに日本人より出せる声は大きいかもしれませんが上手く歌えるようになるためにその歌手が発声練習などのトレーニングを日々重ねていたであろうことは少し考えれば分かることでした。

もっと身近な事で考えてみると、例えば良く勉強ができる子を見た時、私は「やっぱりあの子は頭が良いなあ。」と思います。この時私は彼女が努力をしたのだと思うより、彼女は努力をせずとも頭が良いという事を前提に考えていました。

この二つの例から、私はあの人は〇〇だから、と決めつける事の裏には、自分が努力していない事を認めたくない、相手に少しでも嫉妬やうらやましいという気持ちを抱いてしまった事を認めたくないという思いが関係していると思います。村人達がソロンの優秀さを緑の瞳の魔力のおかげと決めつけようとしたのは、自分がソロンより劣っていることを認めたくない、ソロンが並々ならざる努力をしている事を知っていたからこそ、その事から目を背けていたいと思っていたからではないでしょうか。

努力をするのは難しい事だと思います。努力したからといって絶対に報われるという訳ではないし、一体どう努力していいのかも私には分かりません。だからこそ、努力のやりかたを知っていて、成功を修めている人を見れば羨ましく思う事もあるし、妬ましく思う事もあるでしょう。しかし、それだけで終わらせて目を背けようとするのではなく、相手

の努力を認め、目を向けることが大切だと思います。相手から努力の仕方を学べる事もあるだろうし、相手を目標としても良いのではないのでしょうか。

私は努力するのが苦手です。しかし、この感話を書くにあたって考えなおしてみても、できない、で済ませて、ただ相手を羨ましがるのはではなく、自分で考えながら自分なりの努力の仕方を考えていこうと思いました。